

第22卷・第6号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和49年6月1日（毎月1回1日発行）

牧草園藝



やはり子牛の育成には…… ネオカーフミルク(カーフミルク)法が安全で有利

札幌研究農場 松原 守

子牛の育成法にはいろいろありますが、それらを大別すると次のように分けられます。

- 1) 全乳・脱脂乳法 生後30~50日齢位まで全乳を給与し、その後、脱脂乳にきりかえて、120日齢位今まで全乳と脱脂乳を給与し、途中から子牛用配合、乾牧草を併給する方法。
- 2) カーフミール法 30日齢位今まで全乳を給与して、その後、カーフミールを水に溶かして120日齢位今まで給与する。途中から子牛用配合飼料と乾草を併給する方法。
- 3) ネオカーフミルク(カーフミルク)法

この方法は現在最も広く利用されている方法で、全乳は母牛の初乳を与えるのみで、7~10日齢からは代用乳ネオカーフミルク(カーフミルク)を5~6倍の温湯で溶かして給与し、同時に人工乳カーフスターを併給しています。45~50日齢で液状で与える代用乳は止めて、固形状の人工乳カーフスターと乾草を給与する早期離乳法で、乳牛にとってたいせつな臓器の発達を良好にし、将

来多量の牛乳の生産が期待できるように作られた方法です。

これらの大別した方法について、一般に用いられている飼料給与基準とその基準を用いて、給与飼料費を試算しますと下記の表のようになります。試算に用いてある単価はおおまかなもので、乾草は自家生産の場合です。

これでみると、4ヶ月の哺育期間にかかる費用は、全乳・脱脂乳法では約44,000円となり、カーフミール法では約34,000円、ネオカーフミルク法では約25,000円となり、ネオカーフミルク法は全乳・脱脂乳法に比して19,000円、カーフミール法に比して9,000円給与飼料費が安くつきますので最も経済的な方法であるといえます。

もちろん、子牛育成上の安全性についてもすぐれております。

なお、ネオカーフミルク法(カーフミルク法)の詳しい点については、「牧草と園芸」5月号または当社子牛育成飼料のパンフレットをご覧下さい。

育成方法別子牛の育成飼料給与基準と飼料費(kg)

日齢	日数	1) 全乳・脱脂乳法				3) ネオカーフミルク カーフミルク法				2) カーフミール法				
		全乳	脱脂乳	子牛用配合	乾草	ネオカーフミルク	カーフミルク	カーフスター	子牛用配合	乾草	全乳	カーフミール	子牛用配合	乾草
1~4	4	5				①	②	③	④	⑤	5			
5~7	3	5				0.3	0.3				5			
8~10	3	7				0.6	0.6				6			
11~15	5	7				1.0	1.0				6			
16~20	5	8				1.2	1.2				6			
21~25	5	8				0.4	0.2	1.0	1.0	0.2	5	0.3		0.2
26~30	5	7	2			0.4	0.2	0.7	0.7	0.5	4	0.5		0.2
31~35	5	6	3			0.5	0.3	0.5	0.5	0.8	2	0.7		0.3
36~40	5	5	5			0.6	0.4	0.2	0.2	1.0		0.4		
41~45	5	4	6			0.7	0.5			1.3		1.1		0.5
46~50	5	2	7			0.7	0.7			1.5		1.3		0.7
51~75	25		10			0.9	1.0			1.7		1.8	0.2	1.0
76~100	25		10			1.1	1.5			2.0		1.2	0.8	1.5
101~110	10		7			1.2	1.7			1.0	1.0	1.7	0.5	1.7
111~120	10		7			1.2	2.0			2.0	2.0	0.5	2.0	2.0
計 kg		291	755	93.6	111	30.7	30.7		129	30	111	168	106	111
単価(円)		70	20	67	20	283	261		94	67	20	70	60	20
金額(円)		20,370	15,100	6,271	2,220	8,688	8,013		12,126	2,010	2,220	11,760	15,749	4,020
飼料費合計 (円)				43,961		①+③+④+⑤ ネオカーフミルク法			25,044				33,749	
						②+③+④+⑤ カーフミルク法			24,369					